



# みどりの風

平成29年6月1日発行  
校報 第542号  
(みどりの風 第85号)  
練馬区立関町北小学校

## 言葉は心

校長 大野 泰弘

先週27日(土)の運動会には、多数の保護者、ご家族、地域の皆様方にお集まりいただき、子どもたちに心温まる励ましのご声援を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。勝敗はつきましたが、子どもたちは笑顔と喜び、達成感・満足感に満ちあふれていました。けがや体調不良で参加できなかった子もいますが、その子の分まで、ほかの子どもたちは一所懸命努力してくれたことと思います。ご来場くださった皆様には、子どもたち一人一人がこの運動会に向けて努力してきた熱い思い、学年・学級の一体感などを、演技・競技・係活動を通して感じ取っていただけたことと存じます。

さて、そんな運動会に燃えた心を穏やかに鎮め、学校生活のリズムを整えるため、今月は「読書月間」としています。また、運動会を通して得られた一体感や成就感などを学年・学級の友達や異学年の子どもたちとの心のふれあいを通してよりよい人間関係に発展させていくことができるように、6月は「ふれあい月間」にもなっています。

ところで、この「ふれあい月間」では、子どもたちのよりよい人間関係づくりへの大きな壁ともなる「いじめ問題」の解消についても学校として取り組んでいくことにしています。

すでに報道もされていますが、今年の4月に、仙台市の中学2年生の生徒が自らの生命を絶つという痛ましいことがありました。報道の中では、同学年の生徒から、机に「死ね」と書かれたり、「臭い」と悪口を言われたり、物を投げつけられたりした等々のいじめ行為を受けていたこと、また、学校側や教育委員会のかかわり方に対する批判も伝えられています。いじめは「いつでも、どの学校・学年・学級でも起こりえる、だれもが被害者、加害者、傍観者の立場になり得る」と言われていますが、過去に起きた大きな社会問題になった事案から学んだ教訓が生かされていなかったようにも感じられ、とても残念に思います。

では、本校の子どもたちはどうなのかと振り返ってみますと、どの学年も落ち着いていて、生活指導の重点に掲げている4つのあ(あいさつ・あんぜん・あつまり・あとかたづけ)はとてもよく意識されていて、大きな課題はないように感じられます。しかし、その落ち着いた、穏やかな本校でも次のようなことがありました。なお、以下のことは、再発防止を含め、いじめ根絶のために、関係したご家庭のご了解を得て掲載しておりますので、取扱いにはご配慮をお願いいたします。

そのこととは、友達の持ち物に「死ね」という言葉を書いて、持ち主の子の心を深く傷付けたということです。持ち主の子がほかの友達と一緒に教員に知らせてくれたので、学校側も事実を確認することができました。週末でしたが、持ち主の子の保護者の方、その言葉を書いた子の保護者の方にもご連絡を差し上げました。5連休の間に、加害者側のご家庭では、被害を受けた子の気持ち、その保護者の方のお心を真摯に受け止め、家族内で話し合いをしていただきました。連休後には、子どもたちと保護者の方が一堂に会し、そのことが起こった経緯や背景、また、それぞれの思いを伝え合い、加害者のご家族からは丁寧な謝罪の言葉が伝えられました。そして、被害者の保護者の方は、これからの学校生活にお互いに前向きな気持ちをもって臨んでいく大切さ、いじめを止める勇気をもつ必要性、そして、今回のことを通して、学校として再発防止に努める体制づくりの重要性などを心に染み入るようにお話いただきました。そのお気持ちにより、今は双方の児童とも安心して学校生活を営んでくれています。とてもありがたいことです。

今回の件は、「死ね」という言葉の意味を深く捉えずに安易に使うことの不適切さ、子どもが「死ね」の類いの言葉を日常生活の中で使う現実があることを改めて教えてくれました。同時に、校内で起こったこととして、本校のすべての教職員が重大な事態につながりかねないことであったと再認識し、今後の指導に役立てていかねばならないと痛感いたしました。学校では、「いじめ防止対策推進法」のもと、「学校いじめ防止基本方針」を策定し、ホームページにも掲載していますが、それが飾りものであっては、子どもたちの心に響く指導、人の心を生かす言葉を紡ぐ指導にはつながっていきません。心を育てるには、言葉を育てることも必要です。「言葉は心」、「言葉は行動」なのです。

今回の件を受け、学校としてあらためて研修の場をもち、まず、確認したことは次の通りです。

教職員一人一人が確かな人権感覚をもち、児童一人一人の心に寄り添うことに、より一層努めること。

児童に、相手の存在感・所属感・達成感を否定する言動をしないように指導し、学校生活がより楽しく充実したものになるように、「学校で大事にしたい言葉(例:ありがとう・すてきだね・がんばったね等)・学校からなくしたい言葉(例:死ね・うざい・きもい等)」を考え、いじめ根絶に向けて実践・行動できるように指導していくこと。

事実関係を含め、情報収集・情報管理を徹底していくこと。

運動会は感動のうちに終えることができました。その感動や喜びがこれからも継続され、子どもたち相互の心の結び付きがより深まり、楽しい学校生活につながっていくように、これからも努めてまいります。ご家庭・地域におかれましては、子どもたちの僅かな変化を見過ごすことのないよう「学校いじめ防止基本方針」に示されているチェックシートもご活用いただき、学校生活からいじめを一掃できるようにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。